

一般社団法人・静岡県中部未来懇話会の理事・運営委員・研究委員全体会が1月31日、静岡市内のホテルで開かれた。当懇話会研究部会がまとめた2018年度年間調査研究テーマ案「スポーツの祭典を活かした地域経済の活性化—持続可能な観光戦略をめざして」を研究部会長の日詰一幸・静岡大人文社会科学部学部長が説明し承認された。

静岡県中部未来懇話会 理事・運営委員・研究委員全体会

18年度年間テーマ案承認

「スポーツの祭典を活かした観光戦略」

2019年にラグビーワールドカップ、2020年には東京五輪が開かれ、様々な経済波及効果が期待される。そうしたことを受け、昨年11月、研究部会



18年度年間調査研究テーマ案などについて討議した理事・運営委員・研究委員全体会。静岡市葵区のホテルアソシア静岡

が次期研究テーマ案について協議し、スポーツの祭典を活かし、県中部地域の経済活性化を目的に持続可能な観光戦略構築に向けた研究を進めていくことを決めた。その後、運営委員会との合同会議での協議を経てテーマ案を固めた。

趣旨説明で日詰氏はテーマ案設定の狙いについて「静岡県でもエコパスタジアムがラグビー、ペロドロームが自転車の競技会場に決定している。世界から多くの訪日客を迎えることになる」と期待を込めた。そして「県中部地域の外国人宿泊者数は伊豆や西部地域に比べて割合が低い。スポーツの祭典を活かし、多くの観光資源を持つ中部地域で観光に焦点を当てた持続可能な経済活性化戦略を構築することは極めて重要な課題であり、稼ぐ観光をめざして研究を進めていきたい」と説明した。

具体的には基調講演とパネル討論による年2回のシンポジウ

ムを開催する。第1回シンポジウム(春季・6月)は「スポーツの祭典を活かした観光の素地づくり」と題し、観光を軸とした活性化をめざすにあたり、この地域に不足しているものを探り、それを克服するためにどうすれば良いのか討議する。

第2回シンポジウム(秋季・10月)では、「持続可能な観光戦略のモデル構築」をテーマにスポーツの祭典を通じた観光戦略が一過性のものではなく持続可能なモデルに高めていくための方策と同時に、中部地域における産官学のマルチパートナーシップによるプラットフォーム構築に向けて検討する。

このほか懇話会事務局が、中部地域経営会議が取り組んでいる17年度提言書「健康経営」について報告した。この後の理事会では、理事の一部選任、運営委員、顧問、研究委員の一部変更などが承認された。18年度事業計画案及び収支予算案と3月6日の臨時社員総会開催なども了承された。

(関連記事23ページ参照)